

事業名	農村青少年組織育成事業費	財務コード (事業)	064503
-----	--------------	---------------	--------

細事業名	農業青年実践能力向上研修費
------	---------------

担当部課室	農政 部 農業技術 課 担い手対策室 担当 (内線)	5364
-------	----------------------------	------

I 事業の概要

実施期間	始期 S52 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	誰(何)を対象に 経験の浅い農業青年、就農希望者	その対象をどのような状態にして 栽培技術や経営管理研修会を通じ、 営農に必要な実践的な能力を習得している。	結果、何に結びつけるのか 中核的担い手の育成による、地域農業の発展
	事業の内容 ※主に23年度 ○事業内容 農業では栽培知識や技術の有無が、生産物の品質に大きく影響し農家収入を左右する。新規就農者等は栽培経験が浅く、知識や技術が不足しているため、生産が不安定である。 このため、農業経験の浅い就農者を対象に、実践能力向上研修を農務事務所単位で開催し、専門研修と集合(共通)研修を実施する。 これらの研修の受講により、新規就農者は自ら、栽培や経営管理能力の技術を習得する。それにより地域の担い手が育成される。 また、研修では相互の交流により仲間づくりが図られ、互いの不安や悩みを相談できる環境を作り、担い手の定着を目指す。 ○平成23年度の実践能力向上研修の開催(4農務事務所合計) 187名(研修生) ・集合研修、専門研修実施回数 (22回 延397人) 研修生に共通する科目分野の研修 ・専門研修研修、グループ研修参加人数 (19回 延297人) 研修生の営農状況や志向部門別に行う研修		
根拠法令等	山梨県農業青年実践能力向上研修実施要領		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	22年度	23年度		24年度	25年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 農業青年実践能力向上研修の開催回数	34回	30回	41回	30回	30回	活動指標 目標設定の考え方 過去の開催実績を参考とした。 データの出典等 事業計画書・事業実施報告書
	活動指標達成率(実績値/目標値)		136.7 %			
成果指標 研修内容の習得率	80%	85%	80%	85%	85%	成果指標 目標設定の考え方 実践的な能力を習得するという研修趣旨から、習得率を85%と設定 データの出典等 研修開催時のアンケート回収結果集計
	成果指標達成率(実績値/目標値)		94.1 %			
決算額、予算額	352	80		80	80	成果指標によらない成果 ・研修参加により、同じ境遇の研修生同士が知り合い、仲間づくりが行われる。 ・仲間ができることにより、栽培技術の他、品種や経営などの情報交換も盛んになる。 ・相談仲間が増え孤立しにくくなる。 ・研修生同士の新たなグループ活動が始まる。
(千円) うち一財額	176	40		40	40	
所要時間(直接分)	320 時間	360 時間	300 時間	300 時間	300 時間	
所要時間(間接分)	時間	時間	時間	時間	時間	
所要時間計	320 時間	360 時間	300 時間	300 時間	300 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,030円×所要時間)	650	731		609	609	

III これまでの事業の見直し・改善状況

--

IV 活動量と成果の判断(平成23年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 ※数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
H22年度活動指標達成率		研修の開催回数が予定を上回る結果となっているが、習得度合いが低いものへのフォローアップ、欠席者への補講的な意味合いの開催なども含まれており、予定を超えた活動量があったとはいえ、想定された範囲内での活動量にとどまっている。
a	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方 ※必ず記入すること
H23年度成果指標達成率		栽培技術等の習得では、受講者のアンケート調査を実施することにより、習得率の確認を行っている。習得目標を85%としたが、平均習得率が80%にとどまり、94.1%の達成率となっている。研修全般においては、担当職員や研修生同士の意見交換により、就農を取り巻く環境下での仲間づくりが進められている。このような環境を支援することで、栽培技術の習得や研修生間の情報交換も進み、新規就農者の孤立を防ぎ、新たなグループ活動につながる可能性がある。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

V 見直しの必要性(平成25年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説明	IV以外の判断項目
有	本研修は、就農から数年間を研修期間として位置付け、就農初期の栽培技術や経営管理指導を行ってきたところ。研修生は原則として2~3年で修了になるが、習得済みの研修生からは、修了後においても年齢の近い者や研修経験者で知見を持つ就農者との情報交換の機会が必要との意見も寄せられている。今後は、就農間もない研修生へのフォローも確保しながら、一定の水準に達している就農者も研修に参加でき、相互の交流機会を確保し、地域、段階といった側面から将来的な農業経営を考えられるような研修体系も検討していく。	k

・「IV以外の判断項目」の欄

○必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) ○官or民(f.民間等実施) ○官の役割分担(g.市町村等へ移管) ○効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) ※行政評価アドバイザー一会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	IV以外の判断項目

・「IV以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

VI 見直しの方向(平成25年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
拡大	新規に就農する者の支援研修は、今後も就農後、年間を通し数年を研修期間として実施する。また、就農後数年経過した研修終了者にも、新たに研修情報の提供、希望により研修参加できる環境を整える。その上で既に定着している研修修了者と、就農間もない農業に取り組む新規就農者との意見・情報交換できる機会を確保する。これにより、就農間もない者には既就農者の情報提供やアドバイスを、既に就農後数年が経過している者には、新たな担い手となる仲間との連携活動が図られる。 地域内の就農者間で連携を強化することで、地域の担い手組織の体制作りに関わり、経験年数等に関係なく就農者間での支え合いも目指す。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、V見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。